

「音節のこと 書いてください!」とリクエストがあったので「音節・韻文のアクセント」のことを書くことにしました。



師匠 指揮者のセルジヨ・ソツシィ氏から伺った話を書いていきます。

ヨーロッパの文化は **古代ギリシア**に起源があります。

音楽は古代ギリシア人の生活には欠かせないもので、
演劇、叙事詩の朗読には 豎琴やたて笛の伴奏が付いていました。

これが「歌唱」の基となり、「歌唱」の発達を追って、器楽も発達していきました。

詩（韻文）には 何音節目にアクセントがつくか、という決まりがあります。

その説明の前に「音節」についての確認をしましょう。

「音節」とは、

通常一まとまりの音として意識され、発音される単位。

日本語ではほぼ仮名一字が一音節にあたります。

典型的な音節は「母音を中心とした音のまとまり」であり、次の4種類があります。

母音 (V)

子音+母音 (CV)

母音+子音 (VC)

子音+母音+子音 (CVC)

イタリア語の **amore(愛)** を例にしてみます。
音節に分けると a-mo-re の3音節になります。

イタリア語の単語には必ず1つアクセントがあります。

短いだと **e**

長い単語だと **precipitevolissimevolmente**

どちらも 1つだけ アクセントがあります。

アクセントの位置には 3つのタイプがあります。

1) 最後から2番目の音節にアクセント

これが 一番多いタイプです

amore ⇒ a-mo-re ア**モ**ーレ

2) 最後の音節にアクセント

città ⇒ cit+**tà** チ**ツ**タ

3) 最後から3番目の音節にアクセント

cantabile ⇒ can-**ta**-bi-le カン**タ**-ビレ

※アクセントのつく音節は 長い音になります。

では、詩・韻文になった時にはどうなるのでしょうか？



単語のアクセントを全て付けると 発音しにくくなるので、省略されるアクセントがあります。
(師匠いわく、イタリア人はお喋りだから、早く話したいのでアクセントを減らしたそう)

代表的な例を 少し書き出します。

● 5 音節の詩 4 音節目にアクセントがつく

sento nel core
certo dolore

音節に分け、アクセントを付けると

sen-to nel **co**-re
cer-to do-**lo**-re

● 6 音節の詩 2 音節と 5 音節にアクセント

La mia Dorabella
capace non è

音節に分け、アクセントを付けると

La mia Do-ra-**bel**-la
ca-pa-ce non **è**

他に 7 音節、8 音節、10 音節、11 音節の詩もよく出てきます。